

令和元年度事業報告

I 令和元年度事業報告

報告にあたって

当協会は、八ヶ岳中央農業実践大学校において、農業の担い手及び農村の指導者の養成、農業技術・経営の研修、農林業体験学習等に関する事業を行ってきた。

大学校は、令和元年度（以下「元年度」という。）も、4月、入学生24名（専修科1年生）を迎え入れ、3月、卒業生17名（専修科2年生）を送り出すことができた。卒業生は、2年間の実践教育によって、農業を身体と頭とで学んだ若者たちであり、必ずや次代の農業や地域を担っていくであろう。

協会・大学校の経営については、元年度上半期において、事業収入が激減し、資金ショートが見込まれる事態となった。急遽開催した理事会及び評議員会の承認を頂き、基本財産の預金の取り崩し、資金の借り入れによって事業を継続することができた。しかしながら、経営収支のマイナス幅は広がり、借入金残高は増加し、待ったなしの経営財務状況に至っている。

このため、収支改善を目指しての経営改善計画を検討、作成し、これを元年度末の3月に開催の理事会及び評議員会に提案し、承認を頂いた次第である。

以下、元年度の事業実施、管理運営等について報告する。

1 担い手の養成

(1) 教育方針

次の方針による実践教育により、担い手の養成に努めた。

- オールラウンド学習（1年次前期）とチーム専攻学習（2年次）
- 地域現状分析・新規就農シミュレーション（1年次後期）
- プロジェクト研究（2年次）
- 卒業論文

(2) 学生数

本年度の学生数は、次の通り。

専修科2年生	20名	(30年度 24名)
専修科1年生	24名	(30年度 24名)
研究科生	0名	(30年度 0名)

(3) プロジェクト研究発表

関東ブロック農業大学校等実績発表会を、元年度は、本大学校が当番校として、令和2年1月22日～23日に諏訪市のホテルで開催した。関東ブロック農業教育施設協議会構成14校の参加の下、プロジェクト発表と意見発表が行われ、本大学校からも成果を発表するとともに、学生、教職員が出席した。

(4) 卒業生の進路

卒業生17名のうち、16名が農業関係に進んだ。自営2名、法人就職14名で、地域は、長野県7名、東京都2名、群馬県、埼玉県、千葉県、山梨県、愛知県、兵庫県、長崎県各1名。長野県7名のうち4名が諏訪地域で、うち2名が当大学校の職員となった。

2 農林業体験学習・研修

実施したイベントと参加人数は、次の通りであり、指導員の確保及びその質の向上に努めた。

(1) 農林体験学習 10,451名 (30年度 11,840名)

(2) 一般体験学習

①保育者等子どもの心身を守り育む職種に対する研修会

24名 (30年度 26名)

②収穫体験 86名 (30年度 190名)

(3) 各種研修・講習

①夏季短期講習会 34名 うち5名が専修科への入学
(30年度 54名 うち7名)

②日本政策金融公庫新任職員研修 19名(30年度 24名)

(農業関係機関職員等農畜産業体験研修)

③諏訪地域教員新任者研修 40名(30年度 35名)

④学生に対する山林実習 4名(30年度 13名)

3 農場経営

大学校の農場は、農業の実践教育の場であるとともに、実践教育によって農畜産物が生産される場でもある。また、農業の六次化に対応し、牛乳乳製品の製造も行ってきている。生産、加工については、予期せぬ事態の発生により減少した一年となった。

(1) 農産園芸

○野菜部門では、新たな技術の導入のため、フザリウム対策としての堆肥製造、ドローンによる圃場のセンシング等、外部機関と連携した取組を行い、学生のプロジェクト研究の素材としても活用。しかしながら、主力のセルリについて、盆明けに突然フザリウム菌による生育不良が発生し、収穫が大幅に減少。来年度、腐植酸であるフルボ酸の活用、畜産堆肥との組合せによる土壌改良を実施。

○花き部門では、専攻科2年生が4名に増加。一方で、販売の中心である直売所は、10月の週末毎の天候不順・台風通過により、来客数の減少等に見舞われたが、シクラメンフェアや地域の観光業者との連携によるバスツアー客の誘致によって挽回に努力。

(2) 畜産

○酪農部門では、低能力牛の淘汰を進めたが、空胎日数の長期化により、年度前半に搾乳牛が減少し、生乳生産が減少。年度後半から頭数が回復し、搾乳・出荷量は増加して、年間としては前年度を上回る。来年度は、発情発見の効率化に加え、周産期(分娩前後期)の栄養管理等の改善を図る。

○養鶏部門では、農業生産法人黒富士農場との共同で平飼いを開始。

○JRA畜産振興事業(アニマルウェルフェアに関する事業)を酪農、養鶏、

養豚において開始し、令和3年度まで実施。

(5) 加工

8月中旬、技術責任者の病気によって、乳製品の加工の休止という予期せざる状況に陥り、製造、販売が減少。その後、体制整備や職員採用等により、製造を再開。

4 フォーラムの実施等

(1) ハヶ岳フォーラムの実施

第5回ハヶ岳フォーラムをNPO法人元氣農業開発機構と共催した(6月28-29日)。プレゼンテーションは多岐にわたり、それぞれ研究開発・事業展開を行っている6企業の代表者から行われ、大学校の学生、教職員の他、外部からの受講者を含め、100名の参加を得た。

(2) 農林技術アカデミーの実施

前年度から開始の農林技術アカデミーを元年度も、第5回から第7回まで、計3回開催した。毎回、大学校の学生、教職員の他、外部からの受講者を含め、約80名の参加を得た。

- ・第5回 6月28日 (株)川田研究所 川田 肇代表

テーマ: 豊かな土壌をつくる 土の物理性・化学性・生物性

- ・第6回 10月4日 東京農工大学 藤井義晴教授

テーマ: アレロパシーの基礎 植物たちの静かな戦いー農業への利用

- ・第7回: 1月27日 元農業環境技術研究所 西尾道德所長

テーマ: 日本の有機農業の現状と課題

(なお、第8回を3月に予定したが、コロナ感染予防のため中止。)

5 経営財務

(1) 収支

収支(当期一般正味財産増減額)は、△5,337万円で、前年度△1,647万円に対して、マイナス額が3,690万円の増加となった。

経常収益は、4億7,098万円で、前年度4億8,388万円に対して、1,290万円の減少。前年度対比で減少額が多いのは、教育事業収益の中の研修収益（体験学習）△429万円、農場事業収益の中の作物園芸収益△463万円、加工流通部門収益＝製造収益△667万円。

経常費用は、5億2,436万円で、前年度5億0,035万円に対して、2,401万円の増加。前年度対比で増加額が多いのは、種苗費596万円、肥料飼料費647万円、資材費305万円、修繕費911万円、試験費614万円。

（2）正味財産

本年度末の正味財産は、1億7,173万円で、前年度末2億4,353万円に対して、7,179万円の減少となった。

短期借入金残高は、1億2,800万円で、前年度末に対して、6,300万円の増加となった。

6 理事会・評議員会等

（1）理事会の開催

- ・ 第1回理事会 令和元年6月6日（木） 於：瑞穂会館
「平成30年度事業報告及び決算（案）」、「令和元年度第1回評議員会の招集」、「令和元年度設備投資の変更」について審議。全員一致をもって原案通り承認。
- ・ 第2回理事会 令和元年10月28日（月） 於：瑞穂会館
「基本財産預金の取崩」、「令和元年度資金調達見込みの変更」について審議。全員一致をもって原案通り承認。
- ・ 第3回理事会 令和2年3月6日（金） 於：瑞穂会館
「令和2年度事業計画、収支予算及び資金調達、設備投資の見込みを記載した書類（案）」、「令和元年度第4回評議員会の招集」について審議。全員一致をもって原案通り承認。

（2）評議員会の開催

- ・ 第1回評議員会 令和元年6月24日（月） 於：瑞穂会館
「平成30年度事業報告及び決算（案）」、「令和元年度設備投資の変更」について審議。全員一致をもって原案通り承認。
- ・ 第2回評議員会 令和元年8月19日（月）
評議員会の決議があったものとみなされた日
「評議員辞任に伴う後任評議員の選任」について提案され、評議員全員の書面による同意が得られ、原案通り承認。
- ・ 第3回評議員会 令和元年11月12日（火） 於：瑞穂会館
「基本財産預金の取崩」、「令和元年度資金調達見込みの変更」について審議。全員一致をもって原案通り承認。
- ・ 第4回評議員会 令和2年3月23日（月） 於：蚕糸会館
「令和2年度年度事業計画、収支予算及び資金調達、設備投資の見込を記載した書類（案）」、「定款の変更」、「理事辞任に伴う後任理事の選任」について審議。全員一致をもって原案通り承認。

（3）常任理事会の開催

業務運営に関する経常的な事項について審議決定するため、令和元年6月8日（土）、7月27日（土）、9月7日（土）、9月27日（金）、11月29日（金）、令和2年2月21日（金）の6回、八ヶ岳中央農業実践大学校（令和2年2月21日のみ日本橋）において開催（前年度4回開催）。

（4）経営管理委員会の開催

大学校の経営及び管理上の重要事項を検討評価し、各般の改善を図るため、令和元年6月7日（金）、7月26日（金）、9月27日（金）、11月29日（金）、令和2年2月13日（木）の5回、八ヶ岳中央農業実践大学校において開催（前年度5回開催）。

（5）その他の委員会の開催

食育企画委員会を令和元年4月23日（火）に開催。

以 上